

シンポジウムで最も興味深かった内容は？	シンポジウムの改善点は？	シンポジウム内容についての質問	その他、支援員に対するご意見、ご要望
情報支援体制の全国普及、品川支部の活動報告⇒啓蒙・啓発の地道な努力が求められていることを実感いたしました。	勉強不足でわかりません	同上	情報に対して、すごく不自由をしている方が多数いらっしゃることに、まず驚きました。今まで全く気が付きませんでした。“情報は命”にはグッときました。支援の輪が広がることを願っております。
「品川支部の活動報告」私、品川区でガイドヘルパーの活動しておりますので、利用者さんにお声をかけてみようと思っています。	資料に不足があるということは、あつてはならないことだと思います。人の手と目で確認をお願いします。	これから行われる予定の「読み書き情報支援員養成基礎講習会」の詳細を知りたいです。	急な参加にもかかわらず、快く承認して頂き感謝申し上げます。市橋さま、ありがとうございました。
森田さんの実演はとてもわかりやすい			たくさんの地域で、たくさんの方が気軽にサービスを受けられるように普及してほしいです。
図書館の縦割り 読み書き(代読・代筆)情報支援の取り組み	議員は忙しいかも知れませんが、偏った政党の宣伝はおかしい。平等に。		現在、70歳。3年前、原因不明の眼病になり、失明を宣告され薬物(ステロイド等)の投薬により、入院2ヶ月、なんとかやっと少し視力を取り戻しましたが骨粗しょう症と脊椎圧迫骨折により、コルセットをしなければいけなくなり、バリバリ仕事をしていた頃は視覚障害の本などわからなかった自分を恥じております。目の病気は障害手帳は取れません(変動があるとのこと)。地域で弱者と健常者が一緒に暮らし、住みよい町づくりをと現在活動しています。新潟県立図書館友の会やボランティア活動を健常の時はしていましたが、今は休業。今回のシンポジウムを聞いて、仲間と共に活動開始したいと思います。音読の語り部をやって色々な人達との交流で心かよわせています。今日のテープが欲しいです。みなさんのお話はキョウメイ？です。乱筆すみません。まだまだ言いたいこと書きたいことは山ほどあります。
函館視覚障害者図書館の森田さんの読み・書き(対面朗読)にの実演を見させてもらったことです。日頃、自分たちが勤務する図書館で行っている読み・書きサービスの見直しと違いがよくわかりました。	来賓のあいさつなどが多すぎて、もっと日常業務での実体験や問題点をやってほしかった。今後の展望も具体的な詳しいものが知りたかった。	公立図書館で働いていますが「図書館ですべきこと」と「福祉で行うこと」の違いに日々悩んでいます。そのような問題を解決できる条例などはありますか？	このような情報支援員の教育や活動が、今後公的なサービスになるためには行政の助けが必要不可欠。全国の図書館で当たり前のように行えるようになることを望む。
本当に取り組んでいるNPOの運営の困難さがわかった			
対面朗読の実演はとてもわかり易かった。また全国の図書館で行われている所とない所の差が大きくもっと広げていくべきだと思った。	内容紹介だけでなく、事例も具体的にもう少し知りたいと思った。		障害者サービスの歴史が聞けてよかったです。視覚障害者の要望が今の代読・代筆につながっていったのですね。良いお話をありがとうございました。
こうした支援活動が行われていることをどうやって視覚障害者に広く伝えていくか、難しい問題だと思いました。	特に有りません		平成24年度の養成基礎講習会の日程等につきご教示下さい。受講したく思います。
山内さん、森田さんの話は面白かった。実演はとてもためになった。品川区は市民後見でも先駆者で、なぜいろいろなことが品川区は進んでいるのかなと思った。	皆、話が長い。もう少し簡潔に。行政書士法の話は何が言いたいのかさっぱりわからなかった。会計もう少し工夫。長蛇の列。手際が悪い。椅子の横のテーブルはほとんどの人が気づかなかつたのでは？はじめに一言説明欲しかった。200人収容なのに本を50冊しか用意していないというのはおかしい。商売が下手。	次の講習会はいつでしょうか。	各自自治体でも講習会をやるようになるといいと思います。
三上博志氏、森田直子氏の現実的な実際に則した話。			信頼関係が第一歩のように感じている。まず最近では家族・親戚・ご近所の高齢者の方の手助けをしている。高齢になると、耳・目が弱くなり、読むこと知ることが面倒になっているようです。行政から発布発信される文書の簡素化も願います。

シンポジウムで最も興味深かった内容は？	シンポジウムの改善点は？	シンポジウム内容についての質問	その他、支援員に対するご意見、ご要望
三上博志氏、森田直子氏の現実的な実際に則した話。			信頼関係が第一歩のように感じている。まず最近では家族・親戚・ご近所の高齢者の方の手助けをしている。高齢になると、耳・目が弱くなり、読むこと知ることが面倒になっているようです。行政から発布発信される文書の簡素化も願います。
情報支援を権利として制度化してゆく、ということ。			支援を必要とする人がいる以上、この取組が大きな柱となって強く生きることに関わっていくよう働きを強化してゆく必要を強く感じました。
品川区の読み書き支援について実践 ～行政の先を行く、身近な支援～	森田さんの代読の実践で、吉泉さんの顔に文字が映写されていましたがテーブルを斜めにするなどセッティングを工夫したほうがよいと思います。		潜在する要望はあると思います。体制化するためにどうしていったらいいのでしょうか。
具体的な事例(函館)、都内での事例、困難さ(品川) とても興味深かったです。			読み書き支援を専門化させるほど、他との連携や研修が求められていくと思います。具体的な方向性、可能性を掘り下げていくとさらに意味深いものになる気がしました。
函館での実際実施された報告・利用者の要望などが聞けてよかった。また、実例として目の前で朗読(代読)を行なっていただいたので参考になった。			日常でも代読する場面が多々あり、特に講座などは受講したことはありませんでしたが、よりニーズに応えられる制度の確立が必要だと思います。普及させるにあたり情報支援員として無償ボランティアではなく有償で行える体制も必要だと思います。
「読み書き」が少しずつ浸透しつつ有ること。	シンポジウムの内容をもう少し簡潔かつ短時間で終わるようにしてほしい。	しっかり伝わったので特にありません。	公的に、全国的に制度化されれば良いと思っております。
函館視覚障害者図書館・森田直子さんのお話と代読実演。			行政の中に位置づけ(専門職)は可能でしょうか？図書館拠点では全国規模への道のりは遠い気がする。出向くのではなく出前式だと利用者は助かる。
			有資格者としてお手伝いできることがあれば…と思っております。本年も情報支援員の講座がありましたら是非参加させて頂きたく宜しくお願い致します。
初めて知ることばかりで勉強になりました。			全ての人に必要なことだとよく判りました。自分ができるところを探していきたいです。
函館での事例紹介	休憩時間が5分では短いと思います。		講座を受講したいと思いました。継続的な開講を希望します。
パネルディスカッション いろいろな側面から発言があり勉強になった			
品川区、函館の現場のリポート	休憩時間はこの人数なら15分は必要と思います。	代読・代筆の養成機関が知りたい。	これから絶対に必要な部分だと思います。自立するためのツールとして人間らしい生活をするためのベースとして不可欠だと思います。
森田さんの函館での活動報告と実際の代読の様子を紹介して下さったこと。品川の三上さんが実際は開店休業状態だということ。対面朗読が40年以上前から行われていること。	初めての参加でしたので、どう考えたらいいかわからない点がいろいろありました。特に行政や自治体との関わり等、言葉自体に馴染みがなく理解が追いついていないことがあり、残念でした。	全く知識なく参加したので現在存在している団体名から、その相互の関係もイメージ出来ませんでした。「読み書き支援の普及促進」にそれぞれどのように関わっているのかもわからなかったです。	私は音読が好きで、かつて新聞記事の音読を録音し、視覚障害の方に喜んでいただいたことがあったので、是非勉強して活動したいと思いました。しかし、実際は活動の場もなさそうですね。何をどうしたらいいのか、現時点では何もできない様子なので残念です。

シンポジウムで最も興味深かった内容は？	シンポジウムの改善点は？	シンポジウム内容についての質問	その他、支援員に対するご意見、ご要望
森田さんの代読。⇒どう読む。どこまで細かく読むのかなど。視覚障害者の方が実際に作成したパソコンでの書類⇒打った内容と想像と違う。同音異義語など。	真面目で堅い話になってしまうのはわかりませんが、話が長くて聞いていて疲れる。スクリーンを使って説明してもらえると分かりやすい。時々おもしろい話を入れて、笑いがあると居眠りする人が減ると思います。13時から15時まで休憩がないのは少々疲れる。講演途中ですが休憩を入れてほしい。講演中にカメラのフラッシュが多い。実際の話色々話して欲しい。		「読み書き(代読・代筆)情報支援員」一般にあまり知られていないけど、頑張っていて欲しい。講習会を行なっているなら、参加したい。
このようなシンポに参加したのは初めてだったので、大変勉強になった。	基調講演が長すぎ(多すぎ?)なのか、パネルディスカッションの時間が短すぎたと思う。		養成講習会(入門)に参加したいと思いました。
全部です		読み書き支援の実態調査はしてあるのでしょうか。知らないところで、ボランティアが、近所の人が行っているかも知れません。もしありましたら知りたいです！	神奈川県ライトセンターに事務局を置く神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団は10年以上前から読み書きを含む「在宅者援助」サービスをやっています。ライトセンターは約10回にわたる講座を事業とし、活動はボランティアで、と住み分けをしています。在宅者への活動といっても、たとえばライトセンターを会場にしてもよく、利用者のニーズに応じています。ライトセンターの事業としては、対面サービスがありますが、これは完全に「読み」のみで「書き」が入ると在宅者援助ボランティアとなります。利用者の素朴な、しかしいちばん必要なニーズをフットワークの軽いボランティアがごくシンプルに始めたか聞いております。今、あらためて情報保障を考える時、情報支援のみを在宅者援助活動から切り離し、図書館の事業にすることは難しい気がします。かといって、図書館が養成以外何もやらず、ボランティアに任せているだけでもいけない気がして、悩んでいます。これは今後の課題として取り組めます！ただ、情報として、ぜひ、先がけて活動しているこの奉仕団をぜひ訪ねてみてください。様々な事例と技術を共有できることと思います。
森田直子氏の報告と実演			
・函館市における活動 ・品川区支援事業	障害者からの意見・要望をもっと多く発表したらいい。もっと地道な活動体験を聞きたい。		
函館の事例を知ることが出来て大変よかった。すべての人を対象として読書権保障としての読み書き支援、支援の重要性がわかってよかった。	質問をした方へのフォローアップ(図書館で具体的にどのように行っているかなど)よい事例の情報提供が必要と感じました。		
パネルディスカッション	壇上、視覚障害者(吉泉さん)の顔にプロジェクターの文字が映った状態で実演がされ、配慮が足りなかったと思う。	パネルディスカッションで重要な数値などが話されていましたが、内容を活字にするのであれば送付をお願いしたいです。	養成講座を愛媛で開催することは可能でしょうか。
支援員の養成ははじまったばかりでそれが図書館の現場でのサービスにどう生かされていくか。	時間と内容について(かねあい)	議員を呼ぶように声かけが多いのか	支援員の修了証書はどこが発行しているのか

シンポジウムで最も興味深かった内容は？	シンポジウムの改善点は？	シンポジウム内容についての質問	その他、支援員に対するご意見、ご要望
函館市、森田さんのお話と実演。品川区の上三さんの取り組み。		今後、全国ネットで進める場合、法的な制度に向けて働きかけて頂けるのでしょうか(地方自治に対して)	基礎講習会を一度受けただけで「情報支援員」をするには不安がとまいません。中級→上級へと講習があれば良いと思います。
1.三上氏:立ち上げて見えてきた問題点のいくつか 2.山内氏:公共図書館の対面朗読の現状、手話での対面朗読の話 3.森田氏:情報サービスの具体例、障害を持つ方のホームの実現・etc 日常生活に密着した読み書き支援の形		伊藤興一議員には横に太い串を差していただきたいものです！！	読み書き支援員養成講座の中級講座や継続講座を定期的に行われ現場の情報(守秘義務の許される限り)交換の機会があると良いですね。広い知識、たしかな知識をもってサービスに臨みたいものですが…
品川支部の方の報告、実体験としてのお話。			視覚障害の方のみならず高齢者の増加するであろう今日、このようなシステムは各自治体の中で身近な図書館に常備できるようになるとよいと思います。
函館視覚障害者図書館専務理事・森田直子様のご報告がとても興味深かった。ステージ上での実践的なやりとりがとてもよかった(実際の情報サービスのやり方を見られてよかった)			読み書き(代読・代筆)情報支援員の講習会をぜひ受講したい。講習会を受講した後、技術認定をしてほしい。受講後、支援員として活動するにはどうしたらいいかを知りたい。支援員のスキルアップ講座も開催して欲しい。
	政治家のメッセージの紹介は不要！時間がもったいない。「普及」を目的としたシンポであることは理解できますが内容的には欲張り過ぎて焦点が定まらずお祭りの(イベント的)であった感はぬぐえません。残念です。政治を動かして普及させるのも大事ですがシンポジウムに政治家にお越し頂くほどの実績はまだ積んで頂いていないのでは？	隣席の視覚障害者に会場の様子や壇上の説明などしていたところ、前の席の方に「静かにして下さい」と言われました。こちらの状況がお分かりになっていなかったことと思いますが、このようなシンポジウムの会場で、こうしたことがあったことについて、少々残念に思いました。「読み書き(代読・代筆)情報支援員のシンポジウムでしたが、このシンポに参加している視覚障害者(何人かいらしたように思いますが)に対しての説明など「支援」は少し不足していたのでは？	
支援員の法律？制度？上の位置づけがはっきりしない(検討中?)のがよくわかった。でも、必要なサービスなのでぜひ、確立させて欲しい。期待します。現状ではボランティアにはピンと来ません。			図書館界の方々にボランティアの力を使いたいこと、職員としてしなくてはならないことの区別を少なくとも理念として考えてほしい(一人ひとりの職員さんが)(予算上など、理念通りにいかないのは承知していますので。)
函館・森田様の事例報告			ぜひ取り組んでみたい。研修会の企画等、ご検討下さったら幸いです。
・代読代筆の実演 ・パネルディスカッション			支援員なるものを初めて知りました。多くの人が関わり体系ができることを望みます。声なき声が中央に届くようにと思いました。
代読・代筆の実演		情報支援員は図書館、視覚障害者の同行援護のヘルパーの職務の代読代筆をおこなう面でも講習を受けなければならないのでしょうか	読み聞かせとは違う「情報支援員」も必要だと思いました。「同行援護」で代読・代筆が初めて認められたことは今回初めて知りました。(家事援助では代読・代筆していました)
対面実施がわかりやすく、実践的でよかった。ボランティアの方の声が大きく、発声がはっきりしていて、障害者の方には理解しやすかったと思う。	実情、実践、体験談などがもっとあったほうが良いと思う。		ボランティアとしては是非訓練を受けて実際にやってみたいと思う。
函館の森田直子様のご現状報告、老人ホーム事業・実施事例がたいへん参考になりました。			

シンポジウムで最も興味深かった内容は？	シンポジウムの改善点は？	シンポジウム内容についての質問	その他、支援員に対するご意見、ご要望
函館における実習再現	過去、現状に対する話の重複(プリント資料でよいのでは?)を減らし、支援サービスの具体的な今後について話を増やして欲しかった。	朗読校正について、誤字を訂正するだけでよいのか、直すのは本人なのか、話すだけでよいのか、など具体的に知りたかった。	仕事(職業)として確立を急ぐ必要があると思う。また、認定、行政の制度化などが急務だと思う。(今のままではボランティアと支援員の差はどこにあるのか不明確だと思う)
函館視覚障害者図書館の森田さんの報告と代読の実践がとても参考になりました。前田さんの障害者サービスの歴史。			できれば読み書き情報支援員養成の基礎講習会を受講し、代読・代筆に協力できればと思います。
函館の実践、品川区の取り組み	議員の紹介、挨拶は不要。公明党、民主党の宣伝の場? パネルディスカッションのメンバーに党の宣伝をする議員は参加してほしい。司会者の発言を含めて党名を呼んだのは公明党は11回、民主党は4回。前田氏、松岡氏にもっと資料を使って話して欲しかった。		講習会の開催をもっと広く知らせたい(都や区の広報で)
文章(印刷物やインターネット)では書かれない実感や本音を伺えてよかったです。			都会はいいのですが、農村部はせまく人間関係も濃いため、公共図書館の利用さえにくいのが実情です。それが更にプライバシーの問題が深刻な代読・代筆なんて…と心配します。自前で支援員を持つよりも、あえて「他所から行く支援員」の方が現実的かも知れません。
森田さんの支援の実演			読み書き情報支援のボランティアができればと思って参加しましたが、結局具体的にどうすればよいのかわかりませんでした。支援員養成講座のお知らせがほしいです。
代読の実践はとてもよかったです。森田さん、ステキです。	私たちは知らないことが多いと気づきました。現状を、たとえば学校教育の中に取り入れたりしていく取り組みも必要かと思っています。	相賀さんのお話は概要がつかめてよかったです。出版・販売の連携が必要ということ、もう少し詳しくお聞きしたかった。	情報がない、届かない不自由さを少し理解できたと思います。震災時に音声時計があれば…というお話、私でも知っているのに目の不自由な方が知らないなんて、やはりどこか、何かが違います。私も反省です。広く目を開いていきたい。
代読・代筆のニーズが高く、視覚障害の方以外にも様々な人が求めているということ。	代読・代筆について知ってから色々な話を聞きたかった。初めのほうに森田さんの話を聞きたかったです。		
大活字様経由で出版物を納品させてもらっている業者です。今回のシンポジウムで読書のテーマに考えることができ、私共ができること・やれることをもう一度考え提案したいと思います。			
函館での取り組み			スキルアップ講座が近くであれば参加したい。
必要とされているのに、なかなか利用されていない難しさ。			利用者が少ないということ、PRが足りないのか…
森田直子さんの報告及び実演			
支援の実演。普及への壁となる縦割り行政の話。		資料の作成にもかなり経費がかかっていると思われそうですが、全て貴協会の負担でいいのでしょうか。(提案として)一人100円でも200円でも参加費として払ってもいいような気がしました。	支援を必要とする人たちが一日も早く、ひとりでも多く利用できるためにも支援員の立場の確立と区市町村単位の自治体への働きかけ、社協との連携などを進めていただけたらと思います。
必要と思われるものが既にあり、それが伝わっていないという事実。	動画の音声はやや聞き取りにくかった。		

シンポジウムで最も興味深かった内容は？	シンポジウムの改善点は？	シンポジウム内容についての質問	その他、支援員に対するご意見、ご要望
実際に視覚障害者の方の実演があったのでわかりやすかった。	講演説明時に映し出されるスクリーンの文字等が小さくて見辛かった。拡大が出来るといいと思う。		今後の発展とご活躍に大いに期待しております。
大変すべて勉強になりました！			
品川支部(品川区)の先進的な取り組み			
品川支部 三上博志氏の活動を応援します。是非がんばって続けて下さるようお願い致します。			
山内薫さんの講演。全国の図書館における情報支援。森田直子さんの函館における豊富な事例の紹介。	目的がやや不明確に感じた。一般を対象にした啓発なのか、関係者の情報交換なのか。		この制度が都内各区の図書館に普及すること。それから地区社協のサービス会員制度(例えば図書館まで同行する、社協に申し込むと図書館に話が通じるなど…)と連携が出来たらもっとよいのではないかと感じました。シンポの感想:前田章夫さんの経過説明、松岡要さんにより全国図書館の現状、各政治家からの発言により、問題の所在が立体的に明らかになったのは、大変よかったですと思います。
山内薫氏・森田直子氏の報告、三上博志氏の報告	賛同政治家のメッセージ紹介は不要。時間を繰り上げ、休憩時間を長したほうがよい。		世田谷区で実施されている情報サービス支援員の制度(視覚障害者自身が推薦してユーザー自身の支援者を登録。私文書・公的書類の代読筆業、日常的要素の強い内容のものを自宅で“対面音訳”。公費で賄われるので、支援者には区より謝礼金が支給される)についての報告が昨年の初回講習会より無いが、開催当事者の方々は世田谷区の取り組みをご存知なのだろうか？
やはりNo.7に書いたように代読等のことが興味ありました。今回はお話に出て来ませんでしたが、前から高田馬場の点字図書館は知っていますが他にもあのような図書館必要ではないですか。			森田様の代読を聞きかなり難しいのがわかり、その点が心配です。
			半端な気持ちでは関われませんね。何が出来るかじっくり考えてから歩き始めるか、歩き始めてから考えるか？
函館の森田直子さんのお話がすぐに役立つ感じで参考になりました。			やってみたいと思います。
◎三上博志さんの報告。やはりマニュアルより人だ。○山内薫さんの報告 ◎森田直子さんの函館の報告			
森田さんのビビッドな報告			講習会の予定を知りたい。
実際の利用目的、要望等わかったこと。			守秘義務について徹底した講義が必要と思うし更新講習のようなものも必要かもしれない。
森田直子氏のお話と対面朗読の実演はとても勉強になりました。	パネルディスカッションでは公明党議員の声だけは音声で明瞭だったが登壇者の多くの声が聞き取りにくかった(森田氏のみ大変よかった)	読み書き支援員になるにはどうしたらよいのか。養成講座の実施について何の案内もなかったのは残念でした。	音訳ボランティア養成講座を4月から1年間受講することになっていますが(朝日カルチャーセンター)読み書き情報支援員になるためには養成講座を受講したほうが良いですか？(⇒パネルディスカッション後の質問への応答で少しわかりました)。養成講座を受講していないので支援員としての活動はできませんが、いただける情報があれば下さい。

シンポジウムで最も興味深かった内容は？	シンポジウムの改善点は？	シンポジウム内容についての質問	その他、支援員に対するご意見、ご要望
・災害時の情報保障のための平時からの取り組みの重要性 ・代読代筆における守秘義務 ・時代に対応したサービス(ITの使用)	・受付と入り口のドアが近すぎたため開閉の時に危ないと思いました。 ・パネルディスカッションのほとんどが各自の報告で議論になっていなかったと思います。パネリストの方々と議論をしていただいで会場を温めてもらわないと会場からは質問しにくいです。	近年はITを活用して電子的に文書を読む技術(音声化、文字の拡大縮小など)が発達しています。その状況を踏まえた上での代読代筆サービスの重要性について、より深くお話を聞いてみたいと思いました。	ITによる読み書き支援ツールも近年は色々ありますので、それに関する知識を身につけることも重要かと思います。
すべての人が情報にアクセスできる権利の保障について、どの講演者の方も強調しておられたのが印象的でした。そのとおりだと思います。森田さんによる代読の実演はとても勉強になりました。	内容が盛りだくさんで非常に充実していましたが、それぞれの時間が短く、もっと深くお話を伺えたらよかったです。		様々な地域で継続的に養成講座を開催していただきたいと思いません。ぜひ参加したいです。私は非正規の図書館司書ですが公共図書館における必要性を現場から要求していきたいと思いません。
・函館市 森田さん実演、対面朗読 ・墨田区 山内さん公共図書館の実態 ・元品川区議会議員 三上さんの熱意	読み書き情報支援員養成講座の内容をもう少し聞きたかった。	三上さんのチラシを大きく拡大し図書館に貼ったり、チラシをコピーして配布していかお訪ねしたい。(出来ればメールで回答ください)	
森田さんの実演	議員さん出席するよりメッセージを残したほうが長く紹介されるのは、どうでしょうか。出席された方のお名前もメッセージのように映せば公平かなと思います。		
「函館市における読み書き情報支援…」“情報支援”だということがよくわかった。			
函館市での実例を聞き、これが全国に広まればうれしいと思いました。	特に有りません。		現在、年金に関わる仕事をしていますが、退職後はボランティアとして少しでも社会にお役に立てることが出来るように勉強は続けたいと思っています。
何でも読む書く。自宅に出向く。図書館を拠点とする考え方。	トイレ休憩の短さ。会場の寒さ。		高齢者の自宅での読み支援に行った際、相手に痴呆が入っていた場合、たとえば通帳等を読んだ場合に、支援に行った者の立場を守ることの難しさは感じる。
・出版社、図書館等連携して新しい文化を作りたいとの相賀氏のあいさつ ・伊藤都議の縦割り行政への横串を挿したいとの発言。	会場が少し狭かったかもしれません。		何らかの規準・資格を考える必要があります。
情報支援ロープレ			情報支援員はガイドヘルプ必須になるのか
「函館市における～」実演を含め具体的発表			広汎な範囲の人たちにあまり知られていない存在の広報を。
函館市における情報支援サービス			
実際に対面で読んだこと	以前聞いた内容が多かった		情報支援員のスキルアップ講座を開いて欲しい
・函館の対面朗読の実践事例 ・パネルディスカッション			初めて参加しました。どのような活動をしているのか、だいたい知ることができました。
函館市の事例	良かったと思います。		
「函館市における～」もう少し時間をかけての説明・実演がほしかった。	来賓紹介の必要性はあまり感じません(登壇者を除いて)。主催者側のご事情もおありでしょうか。	シンポジウムへの質問ではないのですが、読み書き情報支援員養成講座を修了した場合、代筆が出来る範囲は？次回の養成講座の予定はありますか？	支援員の認定制度の具体的な内容と制度が実現する見通し時期など知りたい。日比谷図書館での事業ですが、一日の受付人数は？支援員はボランティア或いは有償？ 情報支援制度の法制化は望まれるところですが、代筆代読が訪問販売等で悪事に利用される懸念への対策はお考えでしょうか。
情報支援の実演。リアルでわかりやすかった。			

シンポジウムで最も興味深かった内容は？	シンポジウムの改善点は？	シンポジウム内容についての質問	その他、支援員に対するご意見、ご要望
品川、函館における取り組み			支援員養成講座の参加機会がもっとあれば有難いです。
品川区の取り組み			必要な人がいるのがわかっているが、現在、情報支援体制は取られていない。これから検討していく段階だ。対面音訳は図書館資料の音訳というきまりがある。読み書き支援員とは別の考え方がな…。
森田直子さんのお話が非常にわかりやすく、参考になりました。		支援員養成講座の開催の場所を広げて頂きたい。	音訳のボランティアを15年くらいやってきましたが、日々練習はしておりますが、滑舌等でいつまで続けられるかの悩みがあります。今までの経験を活かして「代読・代筆」のボランティアが出来たら楽しいなと思っております。
「品川支部」「函館視覚障害者図書館」実際、現場に出ておられる方の話は興味深く、具体的でよかった。	視覚障害者で実際「読み」「書き」のサービスを受けておられる体験談も聞きたかった。議員の方たちのメッセージよりも！！		読み書き(代読・代筆)情報支援員の存在をもっと広く知らしめることが必要なのでは？私もたまたまJPICのメールで初めて知りました。情宣活動を積極的に行い、支援員になってくれる人を増やしていく。
音訳の実演			
代読の実践			